

東京電力（株）福島第一原子力発電所事故発生以来、国民が今まで以上に放射線被ばくに対して関心を抱くようになりました。そこで今回（社）埼玉県放射線技師会 公益委員会より、被ばく相談対応のための図書を推薦していただきましたので、紹介いたします。

埼玉県放射線技師会 公益委員会 被ばく相談対応のための推薦図書

『さらにわかりやすく医療被ばく説明マニュアル』

患者と家族に理解していただくために

編集 笹川泰弘 諸澄邦彦 監修 日本放射線公衆安全学会

2010年6月24日 発行 発行所 株式会社ピラールプレス 2,200円＋税

本書は2007年に発行された『医療被ばく説明マニュアル』を理解しやすくした改訂版で、すでにお気づきのように、この本の編集著者の諸澄氏は埼玉県放射線技師会の会員であり、今回あらためて公益委員会からみなさんに紹介させていただきます。

本書は、患者さんの話をよく聞くということが最初に述べられていて、検査別被ばく線量では、撮影部位ごとに臓器別の線量が表に示されています。医療被ばく説明のための資料や医療被ばく説明の例、そして多くのページをあてている医療被ばくQ&Aでは、各モダリティ別に詳しい解説が読みやすく書かれています。総じて、医療被ばくに対するインフォームド・コンセントにも活用できる内容です。

また付録として、各種の線量データや説明のポイントなどがまとめられた『医療被ばく説明用下敷き』が付いていて、被ばく相談の対応時には便利です。

公益委員会としては、患者さんと家族に対してのみならず、看護師さんなどの医療関係者に、検査で受ける放射線のことをやさしく説明するためにも、この本をみなさんに推薦いたします。

『放射能からママと子どもを守る本』

著者 野口邦和〔日本大学歯学部専任講師（放射線防護学）〕

平成23年7月30日 発行 発行所 株式会社 法研 1,200円＋税

このたびの福島第1原子力発電所の事故以来、書店には放射線や放射能に関する本のコーナーができていますが、いくつかの本の中でも、特に知りたいことをわかりやすくていねいに解説されているのがこの本です。そのためか、発刊当初はどここの書店でも売り切れとなり、注文しないと手に入らない状況でした。

巻頭には、「市民の目線で、放射線の影響を最小限に」～お母さんを励ます一冊 として、福島県二本松市の三保恵一市長の推薦文があり、多くのお母さんたちが不安に感じているであろう生活の実際に則して、専門家としてのアドバイスがまとめてあります。

見開きの各左ページには、説明のためのイラストや表があり、一読してすぐに役立てられるように、不安や疑問のポイントごとにわかりやすく解説しています。

価格もポケットマネーで買える値段なので、放射線の専門家として、原発の放射能に関連した知識を高めたい診療放射線技師のみなさんに推薦したい1冊です。